

講社通信

初穂講大祭 十二月一日齋行

天照大神が穀神から五穀の種子を受け播種・収穫されたのが日本の農業の起源神話。なかでも稲は神聖な穀物とされました。農作物のなかでも米に特別な位置づけがなされているのは単に日本人の主食であることだけによるものではありません。米は「小目」ともいいます。一粒一粒の米のなかにも神々の御霊がこもっており、これを食べることによって神威を身に受け、一人一人が神々と一体になるというのが日本人古来の考え方であり、これを私たちは無意識のうちに感じているのです。

農は立国の大本であり、食生活なくして人間生活は成り立ちません。農業が産業の片隅に追いやられて久しいですが、米作りを中心とする農業は社会の存立の基盤です。食糧自給率の改善とともに地産地消を心がけたいところです。そして、できるだけ多くの人々が身近に農があると、生活でき、農の大切さを実感できる世の中を失うことがないようにしたいものです。卒業れなくしては伝統的な生活文化を守ることに困難です。

新嘗祭は農作物の収穫と太陽の恵みに感謝する祭典であり、全国の神社で行われる大祭です。一般の神社では十一月二十三日またはその前後に新嘗祭が行われますが、近江神宮では毎年十二月一日、初穂講大祭と

近江神宮日供神饌講
新版第十四号
平成二十四年十二月十日



して行われています。昭和二十五年、滋賀県農業協同組合中央会を中心に近江神宮初穂講が結成され、県内各農協を通じて一家に一升の初穂米の献納を呼びかけ、各農家から奉納いただき、今日に至っています。近年は米作り農家の減少とともに初穂米・講員も減少傾向ですが、県内各地より収穫米を初穂として大前に奉献、感謝の誠を捧げ、あわせて明るく年の豊饒を祈願します。

本年も祭典では滋賀県農協中央会会長が献幣使として祭文を奏上し、感謝の誠を捧げました。滋賀県内旧郡単位十二地域の代表として農協役員が献米使となり采女とともに装束を着用して初穂米奉献の儀を奉仕、また献餅使による餅の奉納も行われ、愛荘町特産の自然薯も奉納されています。

巳・蛇の故事とことば

明年、平成二十五年は癸巳の年。巳は動物では蛇にあてられます。蛇は古くは「へみ」とも発音され、そこから「み」に通ずるともいわれます。漢字の巳も蛇の形をかたどったものとされます。有毒な種類も多く、気味の悪い動物として人間には嫌われることが多いのですが、執念深いもの、不吉なものとも多いようです。

ことわざなどにはよくない意味で用いられることが多く、曲ったもの、代表として「蛇は竹筒に入れても真っ直ぐにならぬ」また「藪をつついて蛇を出す（藪蛇）」など出会いたくないものの代表として用いられていることばです。

その反面、何度も脱皮して若返ることから再生と不死身のシンボルとも考えられ、水の神としての呪力、



家の守護神など「蛇の皮を財布に入れておくとお金がたまる」「家に蛇がいると栄える」「蛇の夢は吉兆」などの縁起のよい面もよく信じられています。蛇（じや）の目の紋は靈力を持つ紋として喜ばれ、和傘の代名詞としても用いられます。

時計技能競技全国大会

十一月二十二日、近江神宮境内の近江勸学館で、全日本時計宝飾眼鏡小売協同組合の主催により、第二十五回時計技能競技全国大会が開催されました。同大会は、時計修理の技能継承と技術の向上を目的として毎年開催されている行事で、過去、隔年に東京と大津で行われていましたが、十五年以降は諏訪で行われた昨年を除き、毎年当神宮で行われています。

機械時計とクォーツの修理技能を競う第一部門とクォーツ時計のみの第二部門とに分かれ、数か所の故障個所が設けられた時計を顕微鏡を覗きながら故障個所を発見し、五十種類にのぼる工具を用いて修理し、その速さと正確さを競います。今回は各メーカーの技術者など二十九名が参加し、第一部門はセイコーサービスマスター株式会社、伊藤一季氏、第二部門はセイコーエプソン株式会社塩尻事業所の相馬弘希氏が優勝しました。

近江神宮の時計眼鏡宝飾専門学校の学生は過去、優秀な成績を収めたことが多く、特に一昨年まで三年連続で在校生か卒業生が第一部門に優勝していたのですが、今回は残念ながら優勝・準優勝などの優秀成績とはなりませんでした。



かるた名人位・クイーン位決定戦

明年のかるた名人戦は、平成十一年に二十歳にして史上最年少名人となり、その年から前人未到の十四連覇を成し遂げた西郷直樹名人が十月に名人位を辞退したため、東日本予選で優勝した千代間大和五段と西日本予選の優勝者の岸田諭六段との名人位をかけた争奪戦となります。

クイーン位戦は昨年までと同様、中学三年のときに史上最年少クイーンとなった楠木クイーンが九連覇をかけて挑戦を受けます。今回は前回の挑戦者の姉の本多未佳六段挑戦することになりました。

年末年始の祭典等

- 十二月十三日午前九時 門松立て
- 十二月二十日午前九時 煤払祭
- 十二月二十三日午前十時 天長節祭
- 十二月三十一日午後三時 年越大祓式（続いて）除夜祭
- 一月一日午前〇時 歳旦祭（さいたんさい）
- 一月一日午前七時二分 初日の出遥拝式
- 一月二日午前八時三十分 日供始祭（につくはじめさい）
- 一月三日午前八時三十分 元始祭（げんしさい）
- 一月五日午前十時 かるた名人位クイーン位決定戦
- 一月七日午前九時 昭和天皇祭遙拝式
- 一月十日午前八時三十分 天智天皇祭（天智天皇のご命日）
- 一月十三日午前九時 かるた祭・高松宮記念杯全国歌かるた大会
- 一月十五日午前十時 古神札焼納祭
- 二月三日午前十時 節分祭
- 二月十一日午前十時 紀元節祭

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られますので、ご覧ください。